

# 来週の『売り物』記事はこれ



2015年6月5日号

毎日新聞東京本社 編集局・販促宣伝部

昨日の敵は 今日の日

## 元日本兵が拓いた日英和解の道

7日(日)



第二次大戦で日英はビルマ(現在のミャンマー)で激戦を繰り広げました。捕虜となった英兵の中には収容所で虐待され、泰緬鉄道建設のため強制労働に従事させられて死んだ人も少なくありません。

このため、元英兵の多くが「日本軍と戦った仲間は、ほぼ例外なく日本人を憎んでいた」と話します。そうした中、元日本兵の平久保正男さんは、たった一人で日英和解への道を歩き始めました。戦後

は商社マンとして日本の経済復興に尽力し、退職後は勤務先だったロンドンにとどまり、元英兵の家を訪ねて和解を説きました。蔑まれても怒鳴られても「兵士が悪いんじゃない。戦争が悪かったんだ」と。平久保さんもインパール作戦で戦友の8割を失いました。彼を突き動かしたのは、何だったのでしょうか。



日曜朝は『S』で始まるー。ストーリーにご期待下さい。

## 「平和」の名の下に

### この国はどこへ行こうとしているのか

夕刊2面特集ワイド 8日(月)、9日(火)

集団的自衛権の行使を認めるなど、戦争や平和を巡って「この国のかたち」を大きく変える安全保障関連法案が国会で審議されています。安倍晋三首相は「専守防衛にいささかの変更もない」「米国の戦争に巻き込まれることは絶対ない」と説明していますが、国民の多くは納得していません。このまま法案が成立すると、日本の将来はどうなってしまうのでしょうか。今週掲載した作家の高橋源一郎さんらに続き、作家の半藤一利さん、政治学者のダグラス・ラミスさんにうかがいます。



## 暗部こそドラマの領域

朝刊文化面 13日(土)

戦争と表現者の接点を探る「創作の原点 戦後70年」には、半世紀にわたりテレビドラマの脚本を書き続ける山田太一さん(81)が登場します。ドキュメンタリーで描けない暗部こそ「ドラマが書く領域」。そんな覚悟と、人や社会を見つめる鋭い観察眼は、強制疎開などの戦争体験によるところも大きいと語ります。



## 理研は再生できるんですか？

理化学研究所理事長 松本紘氏

10日(水) オピニオン面 <そこが聞きたい>



「世界三大研究不正」のなかでも、「最悪のケース」と指弾されるSTAP細胞論文不正問題。いまだ「事件」ではなく「問題」と呼ぶところに、問題の根の深さが見え隠れするようです。大打撃をこうむったのがSTAP「研究」の舞台となった理化学研究所です。批判にさらされたベテラン研究者は自死。伝統ある研究機関は汚辱にまみれ、存続の危機にもさらされました。そうしたなか、今年4月に理研のトップに立ったのが京都大前学長の松本紘(ひろし)氏=写真=です。名声が地に堕ちた研究機関……。再生に向けた心のうちに迫りました。

「知りたい」が分かる。

オピニオン面にご注目ください。

## 別所哲也のスマートトーク おんなのしんぶん

8日(月)

隔月で連載している「スマートトーク」。今回のゲストは、前衛芸術家の草間彌生さん=写真=です。水玉模様やカボチャをモチーフにした作品で知られ、86歳にしてなお毎日のように描き続ける草間さん。芸術家として、作品に込めた思いや一貫して流れているテーマについて熱く語り、「草間ワールド」全開の対談となりました。

この対談は記事掲載と同時に、対談を収録した動画や写真特集、対談の全文書き起こしをニュースサイトにアップする予定です。ご期待ください！



## 正しい市販薬の飲み方

くらしナビ面 10日(水)



梅雨などの天候不順が続き、体調を崩しやすくなる季節です。症状が軽ければ、市販薬のお世話になることもあります。ただ、少量でもアルコールと一緒に飲んではいけない薬があるなど注意が必要です。薬を飲む際にも、殺菌作用があり、カフェインを含む緑茶は不向きです。身近にある市販薬を効果的に、そして安全に服用するための注意点を紹介します。

## クレームの伝え方

くらしナビ面 13日(土)

他人に対して思うところを伝えるのは難しいものです。今後も関係の続く学校関係者やご近所の方々が相手だと、特に悩ましいところです。関係を壊すことなく、こちらの意図を理解してもらうにはどうしたらよいのでしょうか。日常生活のさまざまな場面で、クレームを伝える側に立った時、苦情を受ける側になった時の対応について、専門家2人にアドバイスをいただきました。



## 複雑化するポイント・マイレージ

くらしナビ面 12日(金)



買い物に応じてたまり、次の買い物などに使えてお得な「ポイントプログラム」。今ではすっかりお馴染みとなったシステムです。クレジットカードのポイントのほか、電子マネーや航空会社のマイレージなど、さまざまなポイントプログラムができ、それぞれのポイントを「通貨」のようにやり取りできる相互関係が築かれています。こうしたポイントの仕組みを分かりやすく解説します。